動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）

電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

90.8.9 No. 3266

土岐支区長 強制配転の 徹底強化へ

押垂支部長への 乗務停止攻撃を 許すな

仕組まれたことが歴然

千葉運転区支部・押垂支部長に対して、七月二四日から八月四日まで、極めて不当な乗務停止攻撃が強行された。

乗務停止にする前、五日間に渡り、支社と区当局の職制が、二人ペアで「現認」のための添乗をするなど、仕組まれたことが歴然とした攻撃である。

われわれは、この攻撃の本質・敵の攻撃意図を見据え、これを粉砕する闘いに決起しなければならない。

明確な組織破壊攻撃

攻撃の本質は何か。

第一に、動労千葉の組織破壊攻撃である。

「四・一分割・民営化」阻止を二波のストで闘い、JR以降後の三年間をいかなる組織破壊攻撃にも屈せず闘い、清算事業団闘争決戦ストを最先頭で切り拓き、一〇〇〇名争議団を創りだす原動力となった動労千葉。

これをこのままにしておいたら、革マル・JR総連が職場・生産点から崩壊してしまうということに対する敵の恐怖がこの攻撃を一層凶暴なものにしているのである。

狙いは。ストー掃

第二に、JRからストを一掃しようとする攻撃である。

JR東日本にとどまらず、JR全体で、国労が七二時間ストをうっても電車が止まらない現実のなかで、唯一その力を持っている動労千葉。

ここを放置したままでは、四〇才以上を全員出向させることなどできない。株の上場も難しい。スト撲滅のためには動労千葉をつぶしてしまうしかないというところからの、焦りにかられた攻撃なのである。

攻撃の先兵・JR総連革マル

第三に、以上の本質があるがゆえに、「JRからストを撲滅する」ことを自民党と約束し、権力・JR資本の庇護を受けて国労、鉄労などを排除・駆逐したJR総連・革マルが、国鉄労働者の敵である姿を一層あらわにしながら、この攻撃を騒ぎ立てているのである。

この不当処分は新たな組織破壊攻撃の始まりである。敵は、明確に、スト損賠訴訟、役員・活動家に対する強制配転等々、第二、第三の攻撃をしかけてくることは必至である。

公平も公正もない JR東日本の賞罰

千葉支社当局は、すでに、千葉運転区・繁沢前支部長、津田沼・浜野支部長の強制配転を強行した。国労・千葉運転区分会長も強制配転させられている。

一方では、JR総連千葉運転区支部三役たる革マル・永島は、二〇名もの社員の見ている前で、助役の襟首をつかみボタンが吹っ飛ぶほど振り回し、机をけとばし、壁をけとばし、椅子を投げ飛ばし、あげくの果てにダヤ札を投げ捨てて職場放棄しても、乗務停止も強制配転もなしで一減給」である。

まさに、JR東日本の賞罰に公平・公正の文字はない。

全支部にスト決起体制を

われわれは、この押垂支部長に対する攻撃が、役員・活動家を狙い打ちにした強制配転攻撃の第一歩であるこどに怒りを集中し、毅然と闘い抜かなければならない。

動労千葉は、スト損賠訴訟に対しては全地上勤務者のストライキ、強制配転攻撃に対しては全組合員のストをもって徹底的に闘う方針を確認している。

押垂支部長に対する攻撃は、あらゆる意味で、全組合員に対する攻撃である。

全支部で、いつでもストライキに決起できる体制を創りあげよう。

（つづき）

動労千葉に対する組織破壊、JRからのスト一掃、JR総連・革マルを先兵とする攻撃。

この千葉運転区支部に対する攻撃は、具体的には、「一二・五スト」から「三・一八前倒しスト」に対する一四一名にもおよぶ超不当処分と一体の攻撃である。

土岐禎（千葉運転区長）は 組合つぶしをやめろ